

高次脳機能障害のある患者の退院後の在宅における服薬管理の現状

北村直子¹⁾ 伊賀雄¹⁾ 西田由紀子¹⁾ 五百川明子¹⁾ 藤内益美¹⁾
山口隆夫^{1)*} 奥田玲子²⁾

1) 国立病院機構鳥取医療センター看護部 9 病棟

2) 鳥取大学医学部保健学科基礎看護学講座講師

The present state of the management of taking medicine at home after being discharged from hospital for patients with higher brain dysfunction

Naoko Kitamura¹⁾, Takeshi Iga¹⁾, Yukiko Nishida¹⁾, Akiko Iogawa¹⁾,
Masumi Tohnai¹⁾, Takao Yamaguchi^{1)*}, Reiko Okuda²⁾

1) The 9th Ward, Department of Nursing, NHO Tottori Medical Center

2) Department of Fundamental Nursing, School of Health Sciences,
Tottori University Faculty of Medicine

*Correspondence: 鳥取市三津 876 番地 9 病棟

要旨

入院中の服薬支援は、退院後の疾病管理や再発予防、内服薬に対する意識の維持のために重要である。本研究は、A 病棟に入院中に服薬支援を行い、自宅退院した高次脳機能障害を有する中枢神経疾患患者の在宅における服薬管理の現状を知り、退院後の内服自己管理の確立のために、入院時に行う服薬支援の課題を明らかにすることを目的とした。A 病棟を退院後 3 か月以内の患者と家族に対し、外来通院で受診時、または家庭訪問にて、半構成的インタビューを実施した。その結果、在宅では、内服自己管理方法が変わったり、内服確認者が居なかったり、患者本人ではなく家族が服薬管理することになるという現状が明らかとなった。在宅において、患者の身体症状や高次脳機能障害の程度、および退院後のライフスタイルに見合った服薬管理方法を導くため、入院時から、患者や家族との十分なコミュニケーションと情報収集が必要であると考えられた。鳥取臨床科学 10(2), 109-115, 2018

Abstract

The support for taking medicine during hospitalization is important for managing the disease and preventing it from returning after being discharged from hospital, and for maintaining the awareness towards medicines for internal use. This research carried out support for taking medicine during hospitalization in Ward A, learned about the present state of the management of taking medicine in the home for patients that have central nervous system disease with higher brain dysfunction who were discharged home from hospital, and aimed to make clear the tasks of the support for taking medicine carried out at the time of hospitalization in order to establish self-management of taking medicine after being discharged. At meetings with doctors in outpatient visits or at home visits, we carried out semi-structured interviews on patients who had been discharged within the last three months from Ward A and their families. As a result, the present state in the home, in which the self-management method of taking medicine changed, there was no one to confirm the

taking of the medicine, or the management of taking medicine changed from being carried out by the patient themselves to being carried out by their family, became clear. It was thought that in order to bring a management method for taking medicine that suits the patient's physical symptoms, the level of higher brain dysfunction, and the patient's lifestyle after being discharged, a sufficient amount of communication between the patient and their family and information-gathering would be needed from the time of hospitalization. Tottori J. Clin. Res. 10(2), 109-115, 2018

Key words: 回復期リハビリ病棟, 服薬支援, 内服自己管理, 在宅支援, 高次脳機能障害; recovery phase rehabilitation ward, support for taking medicine, self-management of taking medicine, home support, higher brain dysfunction

はじめに

脳血管疾患では、身体機能の障害だけでなく、高次脳機能に障害を伴っていることが多い。高次脳機能障害は、①失認、②失行、③視空間認知障害、④注意障害、⑤記憶障害、⑥情動障害、⑦遂行機能障害、⑧失語に分けられ、障害部位により病態は様々である。後遺症として、身体障害のみならず高次脳機能障害を持つなか、在宅生活を長期に可能とするためには、入院中に行われた指導を継続して実施できることが重要となる。

A 病棟は、主に脳血管疾患や骨折後の患者を対象とした回復期リハビリテーション病棟である。主疾患に加え、高血圧、糖尿病や不整脈などの疾患を有しており、服薬により加療や症状のコントロールが必要となる。確実に服薬できることが疾病管理、再発予防のために重要であり、服薬を理解し、忘れずに内服できる服薬管理へ向け、服薬支援を行っている。

昨年度、A 病棟の取り組みとして、患者が確実に内服自己管理のできる方法を選択するための「薬の自己管理に向けたフローチャート」、「内服管理アセスメントシート」を作成した¹⁾。

A 病棟では、患者に見合った自己管理方法を導き、服薬支援を行い、在宅支援の一つとして、内服自己管理の確立を目指しているが、入院中に指導した内服自己管理方法が、在宅生活でどのように活かされているのかを把握できていないのが現状である。

そこで、退院後の在宅での服薬管理の現状を知り、内服自己管理の確立のための服薬支援の課題を明らかにしたいと考え、本研究を行った。

用語の定義

服薬支援: 薬剤指導を実施後、退院後の生活に向けた服薬管理に対して支援を行うこと。

内服自己管理: 服薬支援を行い、患者自身で、または家族の支援を受けながら、個別の方法で管理、服薬準備から内服までを行うこと。

I. 研究目的

A 病棟で行った服薬支援は、脳血管障害などの脳疾患により高次脳機能障害のある患者の在宅における生活にどのように活かしているのか、服薬管理の現状を知り、その課題を明らかにする。

II. 研究方法

1. データ収集期間

平成 29 年 9 月から同年 10 月。

2. 研究対象

A 病棟に入院中（平成 29 年 7 月～9 月）に服薬支援を受け、内服自己管理が可能となった脳疾患患者で、かつ自宅退院後 3 か月以内で、同意の得られた 3 名を対象とした。

3. データ収集方法

1) 診療録からの情報の収集。

2) 退院後の当院外来での診察後、または自宅訪問にて、患者、家族を対象に、我々の